

華嚴寺の鈴虫と幸福地蔵

華嚴寺でもっとも知られているのはおそらく鈴虫であろうが、寺での鈴虫飼育の歴史はあまり長くはない。第二次大戦の終わり頃（1945 年）に華嚴寺の 8 代目の住職が秋の夜に座禅をしていた際に鈴虫の声を聞いた。住職は鈴虫の鳴き声が戦争中の不安を消し去ってくれることに気づき、参拝者にも心穏やかになって欲しいと考えた。しかし、鈴虫は秋にしか鳴かない。このため、住職は鈴虫の育て方の研究を重ね、28 年後にやっと一年中鳴かせることができるようになった。

寺の入り口付近には幸福地蔵、幸せの地蔵がある。地蔵は日本でもっとも一般的な菩薩の一つで、100 種類以上の様々な形の地蔵が日本各地に存在している。典型的な地蔵は裸足の僧侶で右手には錫杖を、左手には宝珠を持っている。しかし、幸福地蔵は唯一わらじを履いていて、人々の願いを叶えるために家を直接訪問すると言われている。幸福地蔵への祈願は、寺で販売されているお守りを使って行われる。願いをきちんと届けるためにはお地蔵様の前に立ち、幸、という文字がしっかりと見えるよう幸福お守りを両手で握ってお願いをする。願い事をする前に自分の名前と住所を伝え、願いが叶うまでお守りを持ち続ける必要がある。